目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立碑小学校
 学校長 大塚 晋一

令和5年度 目黒区立碑小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和5年5月27日(土) 午後2時00分～午後3時00分
 (・運動会の参観 午前8時35分～12時30分)
 ・学校経営方針の説明
 ・質疑応答、意見交換
- (2) 第2回実施日時 令和5年10月21日(土) 午後1時00分～午後2時00分
 (・授業参観「道徳授業地区公開講座」 午前11時25分～午後0時10分)
 ・本校の教育活動について
 ・質疑応答・意見交換
- (3) 第3回実施日時 令和6年2月17日(土) 午前11時20分～午後0時30分
 (・授業参観「碑フェスタ」 午前10時20分～午前11時20分)
 ・四者による学校評価アンケートの結果について
 ・令和5・6年度の教育活動についての意見交換・質疑応答

2 参加者

学校評議員 松本 保枝 様 鈴木 大二 様 原 美佐子 様
 浅野 一恵 様 堀内 一成 様
 PTA会長 中島 健友 様

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて 保護者 91.9% ▲3.3% 低児童 91.4% ▲1.6% 高児童 84.9% ▲1.3% 地域 100% ±0% 教職員 97.0% ▲3.0%	◎四者ともおおむね高い評価を得ているが、昨年度と比較して、地域以外のポイントが下がっている。アンケートの取り方が昨年度と変わっていることも要因のひとつと考えられる。 ◎低学年児童の肯定的評価の割合が高く、学校生活でよいスタートが切れていることがうかがえる。 ●高学年児童については	・児童が学校を「たのしい」と感じることができるよう、より一層、授業内容の充実、安定した友達関係の構築、行事の工夫を行う。 ・高学年児童においては、発達段階上悩みを抱えやすいことから、一人ひとりの様子をしっかりと把握する。気になる児童については、スクールカウンセラーや特別支援教室の教員等と連携し、児童が安心して学校	・落ち着いて学校生活を過ごしている様子が見える。

	<p>肯定的評価が約 85%にとどまった。個々に問題を抱えている児童がいることが窺える。</p> <p>◎地域については、3年連続してよい評価をいただいた。学習環境を整え、学校全体が落ち着いていることが評価に繋がっていると考えられる。</p>	<p>生活を過ごせるよう支援していくとともに、様々なことに対応できる力を育てていく。</p>	
<p>I 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p> <p>保護者 78.1% ▲14.7%</p> <p>地域 100% ±0%</p> <p>教職員 93.9% ▲3.4%</p>	<p>◎2年連続して保護者・地域とも肯定的な評価のポイントが増加していたが、今年度は保護者の評価が大きく下がっている。来年度に向けて、教育目標等を見直すとともに、学校だより等で年間を通して、本校の教育活動を発信していくことが必要である。</p>	<p>・本校の児童の姿を軸に、教育目標の重点目標を見直す。目標を具現化するために、各分掌でできることを考え実行していく。</p> <p>・引き続き、本校の教育活動を保護者・地域に理解していただくために、学校だより・学年だより等で授業の内容や児童の様子を発信していく。</p>	<p>・教育目標は適切であるが、引き続き保護者に向けて発信し、理解を促していくとよい。</p>
<p>II 心の教育について</p> <p>・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p> <p>保護者 79.2% ▲6.5%</p> <p>低児童 95.4% ▲2.9%</p> <p>高児童 93.4% ▲2.8%</p> <p>教職員 93.9% ▲0.7%</p>	<p>◎児童・教職員とも90%以上の評価を得ているが、昨年度と比較して三者とも評価が下がっている。保護者と連携して心の教育を行っていく必要がある。</p> <p><道徳授業地区公開講座「講師講演」保護者アンケート抜粋></p> <p>「視覚障害のある方のお話を聞いて、我々健常者と変わらず生活されていることに驚いたとともに、少しのヘルプも必要だと感じました。それは特別な知識や技能がないとできないことではなく、思いやりで対応できるものだと感じました。」</p> <p>「立場を変えて考えるその想像力が優しさにつながると感じました。話を直接聞いたり体験したりすることがやはり大切で、そうした機会を子どもたちに作っていきたいと思いました。」</p>	<p>・自己肯定感を高めること、自分と違う考え方を受け入れる心のゆとりをもつこと、苦手なものにも向き合うことができる児童を育てていきたい。そのために、児童に個々の心の様子を丁寧に見ていくとともに、自分の心への向き合い方や人間関係をよくするためのスキルなどを道徳科の授業を中心に全教育活動において推進していく。</p> <p>・道徳授業地区公開講座だけでなく、道徳科の授業の内容や子どもの姿を、学年だよりや学級だより等で随時発信する機会を設け、保護者の理解を促す。</p>	<p>・ICTの普及により、家の中で個で遊んでいるという現状があり、コミュニケーションの量が少ない。それが、友達との関わりや自己肯定感の低さに繋がっているのではないかと。</p> <p>・ディベートなど、話し合いの時間を増やすことで、自分を大切にすると共に、相手を思いやる気持ちも育つ。ICT教育も必須であり、学校でバランスをとって取り組んでいくことが大切。</p> <p>・本日の「碑フェスタ」の発表では、各児童からの質問を促す問いかけに対して、参観している保護者からの発言があまり聞かれなかった。「よく調べたね。」などの声掛けが欲しかった。それが、児童にとってコミュニケーションとなる。事前に学校から保護者に啓発をしておくとうい。</p>
<p>III 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組に</p>	<p>◎「学校の勉強が分かる」と答えた児童は低学年・高学年ともに高い数値を示しているが、経年比較ではいずれも数値が低下している。特に、学習の導入期である1年生において10.6%、2年生の12.1%</p>	<p>・低学年児童の学力定着のために、授業の終末に学習内容を振り返る場を設けるとともに、学習指導員を活用して個に応じた支援をしていく。</p> <p>・日々の学習の様子や校内研究で取り組んでいる内容を積極的に保護者</p>	<p>・「碑フェスタ」では、児童の学習の成果が表れていた。「自分で課題をもって、追求し、考察する」という流れがよく見えた。</p>

<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について <p>保護者 73.8% ▲16.2% 低児童 91.1% +1.9% 高児童 92.8% ▲0.1% 教職員 97.0% ▲3.0%</p>	<p>の児童が「分からない」と答えている。学力の定着に向けた授業改善が課題である。</p> <p>◎保護者の評価は昨年度と比較し、16.2%下がっている。昨年度は校内研究の発表会もあり、積み上げてきた研究内容を発信する機会が多くあったが、今年度は発信が少なく、保護者の理解に繋がりにくかったことが原因の一つだと思われる。</p>	<p>に発信することで、保護者に理解を促すとともに協力を仰ぎ、学校と保護者が連携して効果的に学力の定着に努める。</p>	
<p>IV 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について <p>保護者 75.8% ▲3.7% 低児童 94.4% ▲1.9% 高児童 80.5% ▲4.9% 教職員 84.8% +1.0%</p>	<p>●昨年度は、感染症による制限を継続しながらも運動場の割り当てを工夫したり、運動委員会の取り組みを復活させたりするなど、運動の機会を積極的に設けたことで、四者全てにおいて、肯定的評価の割合が大きく上がったが、今年度は昨年度の数値からは、若干下がっている。高学年の意識が低いことが課題である。</p> <p>◎教職員の評価においては、肯定的評価が一昨年度は60%台に留まっていたが、昨年度大きく上がり、今年度も若干上がっている。教職員自身が成果を感じていることがうかがえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動委員会が実施している「碑トライ」や「長なわ月間」に、多くの児童が休み時間に取り組んでいる。来年度も引き続き体力向上のための活動を工夫していく。 ・高学年児童については、休み時間や放課後に外遊びをしている児童と、室内で過ごす児童が一定数いる。運動委員会の取り組み等を利用して積極的に体を動かす機会を設けるとともに、「ここカラダ月間」に自分の健康を見つめさせるなど、児童自身で課題をもたせ進んで実行させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、内遊びの習慣が身についてしまった。公園等で座り込んでゲームをしている姿も見かける。 ・高学年の肯定的評価が低い傾向が見られるので、積極的に力を入れた方がよい。
<p>V 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて <p>保護者 80.5% ▲5.0% 低児童 95.4% +2.8% 高児童 89.8% ▲2.7% 地域 100.0% +25.0% 教職員 93.9% ▲3.4%</p>	<p>◎児童・地域・教職員の肯定的評価は概ね90%を超えていて、良好である。数年間続いていた感染症の制限が解かれ、運動会・学芸会などの行事やクラブ活動、異学年交流などが工夫して実施できていることによると思われる。</p> <p>●保護者による評価が経年比較で下がっている。学校行事だけでなく、異学年交流やクラス活動など様々な特別活動の様子を発信していくことが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動会」については、昨年度開催後の保護者アンケートから多くの要望をいただいた全校一斉の開催に戻した結果、他学年の活躍を見ていただくことができ、支持を得ることができた。また、「学芸会」においても、保護者参観の人数制限をせずに行うことができた。来年度も保護者のニーズを鑑みながら、様々な行事においてよりよい開催方法を検討していく。 ・本校の特色である「くすのき班（縦割り班）」活動においては、感染症で制限を設けていた数年間十分な活動ができな 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で縮小していたくすのき班（縦割り班）が通常の取り組みに戻り、異学年交流が増えたことがよかった。

		<p>かったため、児童の自然な継承ができていない。高学年児童を育てていくことが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等で積極的に特別活動の様子を発信していくことで、保護者の理解を促すとともに、高学年児童の有用感を満たしていく。 	
<p>VI 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて <p>保護者 77.8% ▲11.7%</p> <p>低児童 94.1% +2.8%</p> <p>高児童 90.1% +1.0%</p> <p>地 域 100.0% +25.0%</p> <p>教職員 97.0% +5.3%</p>	<p>◎児童・地域・教職員について、昨年度と比較して評価が上がっている。特に、全学年共「きまりを守って落ち着いて勉強している」という項目に対する評価が90%以上の数値を上げていて、子どもたちは落ち着いて学校生活を送っていることがうかがえる。</p> <p>●保護者の評価については、昨年度と比較して肯定的評価が11.7%低く77.8%であり、児童の自己評価と大きな隔りがある。しかし、「分からない」と答えた保護者が12.7%であることから、評価の材料がなく、回答に迷ったことがうかがえる。日常の学校生活の様子を保護者に伝えていくための取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生活規律や学校のきまりについて、何のためにあるのかを子どもたち自身に考えさせ、学年の発達段階における規律の徹底を全教職員で一丸となつて行い、落ち着いた学校生活を維持していく。 ・いじめについては、学習eポータルやi-check等も活用し、未然防止に努める。 ・不登校については、児童の思いを大切にしながら、スクールカウンセラーなど関係機関と連携を行い、早期発見・早期対応、また、長期的な見守りを行う。 ・保護者の学校生活の参観機会を設けるとともに、日常の学校生活の様子をホームページや学年だより等で積極的に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、学校生活を楽しんでいる様子が見え、運動会で他学年を応援している姿もよいと感じた。 ・一人っ子が多いので、学校で集団の楽しさを感じさせ、優しい心を育てていきたい。 ・個々の様々な心の問題は、コロナ禍での生活の後遺症でもあるのではないかと。スクールカウンセラーなども活用して心のケアをしていきたい。
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて <p>保護者 86.9% ▲8.5%</p> <p>低児童 94.1% ▲2.2%</p> <p>高児童 96.4% +2.7%</p> <p>教職員 97.0% ▲0.3%</p>	<p>◎児童、教職員から高い評価を得ていることから、児童の防災・安全に対する意識が高まっていることがうかがえるが、保護者の評価が昨年度と比較して下がっている。</p> <p>◎今年度も、下校時の災害を想定した訓練に取り組む、児童は学習用情報端末、保護者はHome&Schoolにて安否確認を行った。</p> <p>◎PTAに協力をいただき変更した保護者の新しい入校証の携帯が定着し、不審者の学校侵入を防ぐために効果的である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も今年度同様、月に1回の避難訓練と安全指導において、様々な災害を想定した実践的な内容を行い、対処の仕方を身に付けられるようにする。 ・来年度も、碑住区の避難所運営協議会と連携して、第6学年児童の避難所運営体験を行う。そのことで、第6学年児童を災害時の地域の担い手として育てる。 ・PTA運営委員と連携し、保護者の要望を積極的に検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年で90%以上の児童が肯定的な評価を示しているのは素晴らしい。 ・毎月の訓練をしっかりとやっている、大人よりも子どもの方が、実際の場面で落ち着いて対応できるのではないかと。 ・避難訓練を保護者に参観していただくことで、取り組みに対する保護者の理解が深まるのではないかと。
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区 	<p>◎第七中学校区の小・中連携子ども育成プランの計画に基づき、「挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き本校ホームページや学校だより等で、小・中連携の取り組みの 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携の目的を保護者に明確に周知するとよい。

<p>の小学校との連携について</p> <p>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</p> <p>保護者 50.9% ▲20.6%</p> <p>教職員 72.7% ▲5.7%</p>	<p>運動」「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を実施することができた。</p> <p>●経年比較で、保護者の肯定的評価が大きく減少したが、この項目に関して「分からない」と答えた保護者の割合が一昨年度の 43.8%から昨年度は 20.8 と%に減少したが、今年度再び 43.9%という結果であった。保護者が最も見えにくい項目であるので、取り組みを保護者に進んで発信して理解を促すことが課題である。</p>	<p>具体的様子を発信していく。</p> <p>・来年度も、今年度同様第1学年の「幼稚園との交流」、第4学年の「合唱参観」第5学年の「出前授業」や「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」、第6学年の「部活動体験」、年3回の3校合同の教員の授業参観及び研修会を実施し、幼稚園との交流、また、中学校までの9年間の連続した学びについて実践を深める。</p>	<p>・他区の小・中一貫校と比較して、目黒区は小・中一貫校ではないので取り組みが保護者に見えにくいのではないかと。それが他区と比較された時に低い数値が出てしまう原因の一つではないか。</p>
<p>VII 情報の発信、家庭・地域との連携について</p> <p>・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて</p> <p>保護者 75.3% ▲18.8%</p> <p>地域 100.0% ±0.0%</p> <p>教職員 100.0% +8.1%</p>	<p>●昨年度と比較して、保護者の肯定的評価が20%近く低下している。保護者が仕事のためにPTA活動に時間をとることが困難になってきたことを踏まえて、今年度からPTAの活動がポイント制からボランティア制に移行した。このことから、卒業までに全保護者がPTA活動に直接携わる機会がなくなったこと、また行事の際のPTAのお手伝いを最小限に留めたことが保護者の協力状況の低下につながったと考えられる。</p> <p>◎学校の情報発信については、夏季休業以降、保護者宛て通知文のほとんどを紙ベースからHome&Schoolに移行したことで、情報を速やかにそして確実に発信することができた。</p> <p>◎地域については昨年度同様、高い評価を得ることができた。公開等で実際の児童の姿をご覧いただくことはできなかったが、学校だより等で日々の教育活動の状況を丁寧に発信していることが要因と思われる。</p>	<p>・PTA活動については、PTA会長がPTAラインを利用して、学校や地域の行事の際に、保護者の協力の依頼や、行事の様子を積極的に保護者に発信して下さった。来年度もさらにPTA運営部と連携を図っていく。</p> <p>・家庭と学校を繋ぐアプリ「Home&School」を利用しての、学校からの通知文や情報の発信、欠席連絡、連絡帳機能が定着し、学校と保護者の意思疎通が速やかに、そして確実に出来るようになった。引き続き有効活用していきたい。</p> <p>・来年度も今年度同様、学校ホームページで学校生活の様子を積極的に発信していく。</p>	<p>・情報の発信媒体を、紙からHome&Schoolに切り替えたことで、保護者が自分から情報を取りに行かなくなってきた。そのことが「情報の発信」についての肯定的評価の低下に繋がったのではないかと。</p> <p>・学校ホームページもアクセスする人としいない人で二極化している。次第に、情報の獲得の新しいやり方に慣れていくと思われる。</p>

<p>Ⅷ 教員の人材育成について</p> <p>・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</p> <p>教職員 93.9% ▲3.4%</p>	<p>◎今年度も昨年度に引き続き、「思考力・表現力」の育成を掲げ校内研究を充実させることができた。教員の授業力を高め、専門性を磨き、教育公務員としての自覚を高めることに繋がった。</p> <p>◎経験年数が浅い教員が多いという現状があるが、若手教員が校内の分掌を担いOJTを充実させることで、有用感をもって仕事を行い、教員としての資質を身に付けてきている。</p>	<p>・今年度の研究の成果と課題を検証し、来年度も引き続き、研究主任・研究推進委員会を中心に、教材研究や授業力向上に努めていく。</p> <p>・来年度もOJT主任を中心に、計画的な人材育成に努める。</p>	<p>・経験の浅い教員が増えていることもあり、現場の負担が大きいと思われるが、引き続き計画的に人材育成に取り組んで欲しい。</p>
<p>Ⅸ 教員の働き方改革について</p> <p>・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p> <p>教職員 81.8% ▲7.1%</p>	<p>◎「チーム碑」の意識が高く、協力し、支え合いながら業務を行うことができている。教員の長時間労働は昨年度よりは減少したが、以前解消されていない。</p> <p>◎教職員の情報の伝達や会議において情報端末を積極的に利用し、業務の効率化を図った。</p>	<p>・来年度に向けて会議の精選、組織の見直し、業務のスリム化を図るなど、教職員の心身の健康を維持するための働き方改革をさらに行っていく。</p>	<p>・教員同士で共有できるものを考えていくことで、仕事量を削減することができるのではないかと。</p> <p>・経験が浅い教員には、仕事のやり方の要領を身に付けさせていくことが大切。</p> <p>・スクール・サポート・スタッフの活用をさらに拡げていきたい。</p>